



# 全国アレルギー認定教育施設紹介

## Clinical Training Center

### 筑波大学呼吸器内科の臨床と研究

筑波大学呼吸器内科

著：川口 未央（講師），檜澤 伸之（教授）

#### ●筑波大学呼吸器内科について

筑波大学は、その前身である東京教育大学の移転を契機に、1973年に設置された比較的新しい大学で、東京の北東60キロメートルに位置し、258ヘクタールにおよぶ国内最大級の広大なキャンパスを有している。筑波大学附属病院は1976年に開院し、呼吸器内科の教授はこれまで長谷川鎮雄先生（1978年～98年）、関沢清久先生（1999年～2006年）が歴任してきた。2007年に当時北海道大学第一内科准教授であった檜澤伸之先生が3代目教授に就任した。アレルギー認定教育施設の認定は2006年に取得している。教授、病院教授、准教授、講師の計9名のスタッフ（図1）が月～金曜日に2名ずつ外来を行っている。アレルギー学会専門医は4名、同指導医も4名が有している。

#### ●臨床と研修

茨城県内はもちろんのこと、近隣の都道府県から多くの患者が集まってきており、筑波大学附属病院の診療圏は広い。そのため、幅広く呼吸器・アレルギー疾患の研修を積むことが可能である。病棟診療はスタッフ、チーフレジデント、研修医の3名でチーム診療を行っており、研修医は常に上級医から指導を受けられるシステムとなっている。診断・治療で



図1 呼吸器内科のスタッフとメンバー



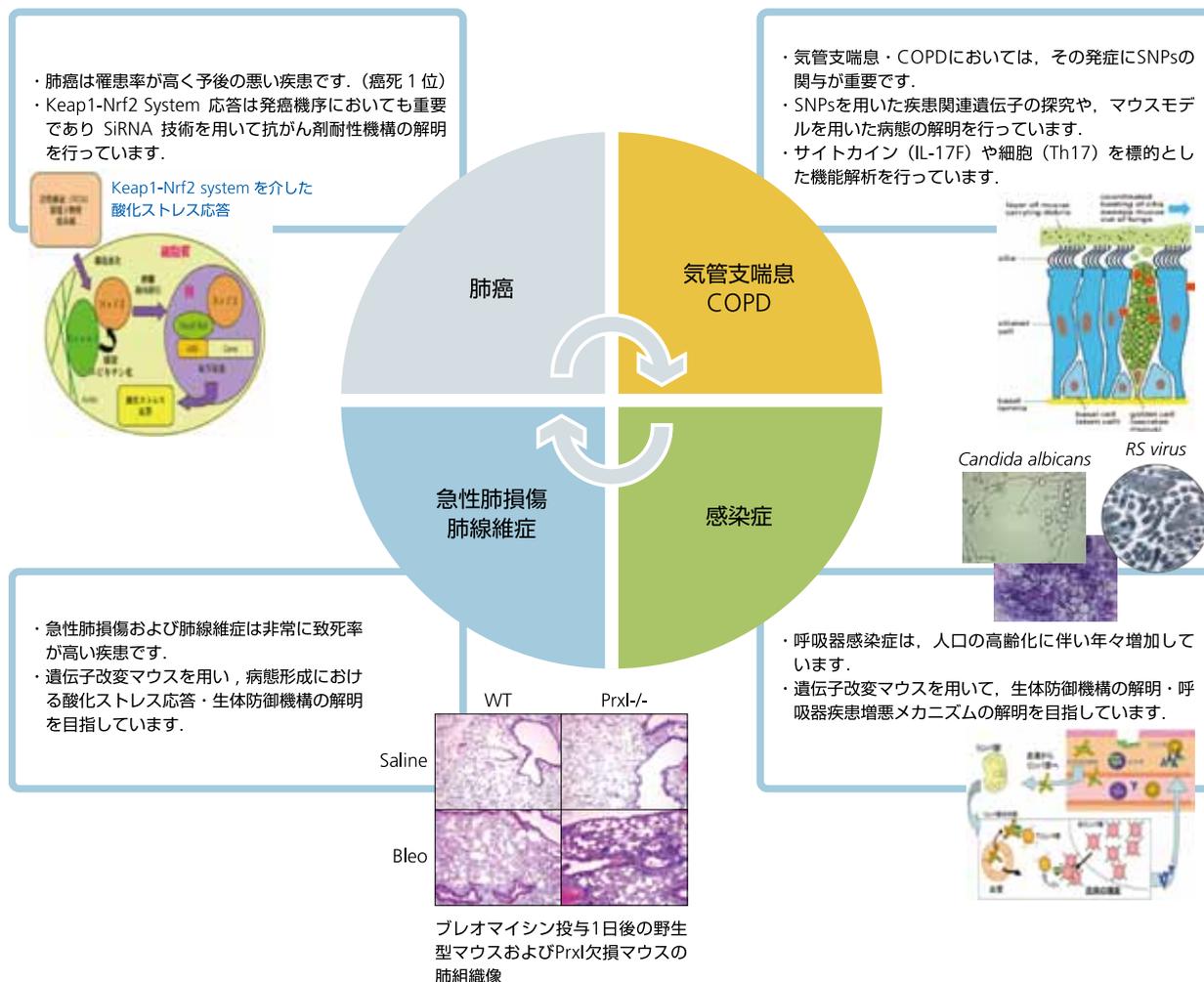


図3 呼吸器内科の研究内容

米国ミシガン大学医学部病理学教室に1名、米国ジョーンズ・ホプキンス大学喘息・アレルギーセンターに1名が留学している。また、国際学会での発表も積極的に行われており、本年の米国胸部疾患学会(ATS)では当科から5演題を発表した。

### ●研究内容

当科では喘息以外にもCOPD、肺癌、急性肺損傷、びまん性肺疾患、感染症と研究の対象は幅広い(図3)<sup>1-3)</sup>。ここでは喘息・アレルギーの研究の一部を紹介する。喘息死ゼロは喘息治療の大きな目標であり、残された課題でもある。当科でも喘息死ゼロを目指すべく活動している。まず、茨城県の成人喘息患者の実態を把握するために、成人喘息患者

およびその主治医を対象に図4のようなアンケート用紙を県内の医療機関に配布した。このアンケートは主治医には7つの質問、患者には23の質問から構成されている。患者の質問8から12はACTと同一となっている。現在、解析中であるが茨城県の喘息死亡率は1.3人(人口10万人対)と全国平均以下であることを裏付けするように、吸入ステロイド薬の普及率が高かった。

21世紀の医療は個別化医療の時代である。当科では喘息の個別化医療を実現するために当大学遺伝学教室、理化学研究所、北海道大学、帝京大学、昭和大学などの全国の施設と幅広く共同研究を行っている<sup>4)</sup>。喘息やCOPDの発症や病態に影響を与える遺伝因子の解明に加えて、現在、複数の抗喘息薬

